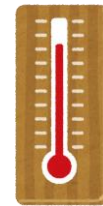


健苗育成で初期茎数の確保につなげましょう！ 異常気象に負けないよう圃場を準備しましょう！

1 今後の天気（1か月予報 仙台管区气象台 4/4 発表）

東北日本海側は暖かい空気に覆われやすいため、気温は高くなる予想で、特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。



2 健苗育成のための管理（無加温出芽の場合）

晴天時、育苗ハウス・トンネル内はかなりの高温になります。苗ヤケや軟弱徒長苗にならないよう、ハウスのサイドやトンネルの裾を開放し、積極的に換気しましょう。

表 生育ステージごとの育苗管理

生育ステージ	温度の目安		管理のポイント
	昼間	夜間	
出芽期 〔マルチ被覆〕	30～32℃		出芽が揃ったら速やかにマルチを剥ぎ取る。無加温では、出芽を揃えるために保温資材で部分的に被覆するなど、こまめな温度管理を行う。
緑化期 ～1.0葉期	25℃	15℃	遮光資材等を用いて弱い光をあて、低温時は保温しながら順次外気温にならし、徐々に緑色にする。
硬化期 1.5葉期～	20～25℃	8℃以上	外気に慣らす。晴天時はハウスやトンネル内はすぐに30℃以上に上がるため、積極的に換気する。田植え1週間前頃から夜間もハウスやトンネルを開放する。

○かん水は、地温・気温が上がる前の朝のうちに、たっぷり行いましょう。

夕方以降のかん水は地温の低下を招き、ムレ苗や根張りの悪い軟弱苗につながります。

○追肥は稚苗（乾糶 150g/箱）で1.8葉期に窒素成分 1g/箱施用します。

○プール育苗では、1.5葉期に床土が隠れる程度に水を入れます。

⚠ 高密度播種栽培の注意点 ⚠

高密度播種（乾糶 250～300g 程度/箱）の場合、特に以下の点に注意しましょう！

- ①播種量が多いため苗が徒長しやすい⇒温度管理は稚苗育苗以上に丁寧に
- ②1箱の苗数が多いため吸水・蒸散も多い⇒かん水は稚苗育苗よりもたっぷり
- ③慣行育苗より苗の老化・生育停滞が早い⇒育苗日数は稚苗育苗より5～10日短く
- ④追肥は移植3日前頃に窒素成分 1g/箱を実施⇒田植え後の初期茎数の確保につなげる

ローラーの活用を！

転圧ローラー



水かけでの覆土落としによる地温低下・過湿を防ぎます。

健苗ローラー



・2回目以降は前回と逆の方向にを折り曲げます。

苗にストレスをかけることにより根張りを促進し、茎を太くする効果が期待されます。

・使用時期は1.2葉（マルチを剥いで数日後）、1.5葉、2.0葉にそれぞれ1回ずつが目安。

3 圃場の準備

- ・圃場の漏水対策として、**畔塗（畦畔補強）**を実施しましょう。
- ・地力の高い圃場ほど**早めに耕起して乾土効果**を発現させ、初期生育を促進しましょう。
- ・作土深が浅い傾向です。耕起速度は速すぎないようにし、**15cm以上確保しましょう（図1）**。

⚠ 作土深が浅いと・・・ ⚠

- ①根量が減る・根域が狭くなることで、根の養分供給力や水分保持量が低下する。
- ②作土の量に対して稲わら量の割合が高まり、ワキ（土壌の異常還元）が発生しやすい。

今年は特に「ひこばえ」が多く、未分解の有機物が多い（＝ワキやすい）状況です。

- ・**代かきは土塊を残すように行いましょう（図2）**。

※代かきを何度も、また深く行くと、団粒構造や孔隙が失われます。活着の遅れや田ワキの発生による初期生育不良の原因となります。



○理想的

△浅い

図1 理想的な作土深の確保

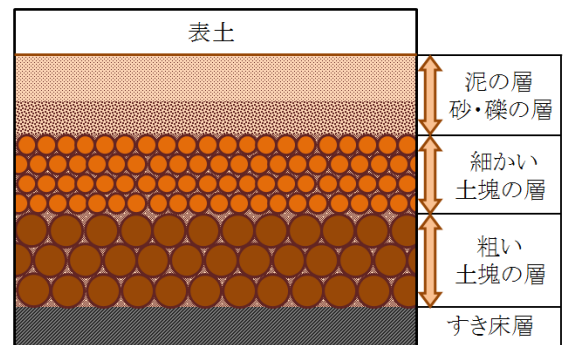


図2 理想的な代かき後の土壌

4 土づくりの実施

堆肥などの有機物施用や、ケイ酸肥料やリン酸肥料等の施用により、積極的な土づくりを行うことで、異常気象による収量低下・品質低下を軽減することができます。

土壌診断に基づいた土づくりを実施し、気象変動に強いイネをつくりましょう！

春季農作業事故防止運動強化期間！ 4/10～6/10
焦らず作業を進め、事故の無いように注意しましょう。

